

ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.24 2009年3月

政府機関関連への協力 集団性のコスタリカ—JICA海外シニアボランティア報告 2

カンボジアの投資環境改善・投資誘致促進アドバイザー 3

自治体・中小企業支援 ベトナムあれこれ—ホーチミンのホテル支配人として赴任して 5

やまぐち産業振興財団に対する支援活動—
下関市での「新製品フェア」で首都圏事業化支援 6

プロジェクトの受託 経済危機の影響下のブラジル人子弟支援 7

教育 英語で授業するABIC大学講師陣—英語で教える講義法講習会 8

教員免許更新制実施に向けてのe-learning講座提供 9

留学生支援 鎌倉ユネスコ協会との交流イベント 10

私のボランティア活動 一期一会のボランティア 11

新刊紹介 『貿易実務のフランス語 Eメール実例集』 4

事務局だより 関西会員懇親会を開催 10

会員入会のお願い 12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル6階 (社)日本貿易会内
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階 403号室
Tel & Fax : 06-4395-1188
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

関西デスクは、執務環境の改善と皆様が集まれるスペース確保のため、
少し広めの部屋へ館内移動しました。是非お立ち寄り下さい。

政府機関関連への協力

集団性のコスタリカ—JICA海外シニアボランティア報告

おおにし てるあき
大西 輝明（元若狭湾エネルギー研究センター）

中米のコスタリカは環境保全とエコロジーの国だといわれて赴任した。1年を経過してなるほどそうだと思う。私の「勤務先」はエネルギー環境省中央火山帯事務所であり、赴任以来ここで地方自治体に対する環境行政の助言や環境教育効果の評価などを行ってきた。現在ではナショナル大学森林研究所（INISEFOR）にも出向き、コスタリカの環境管理に携わりつつある。INISEFORは小規模ではあるが、地球規模での気候変動に対する対策や緩和を森林学の立場から究明しようとする研究所である。首都サンホセは北緯10度に位置するが、必ずしも「熱帯」環境ではない。だから、この国の森林には熱帯雨林以外にも乾燥林、雲霧林などと呼ばれるものも多い。私はINISEFORで気候変動がコスタリカのこうした自然環境に及ぼす影響の数学的モデリングを行っている。

コスタリカはラテン系に属する。しかし少なくともサンホセを中心とするセントラルバレーでは、ラテンからイメージされる陽ざしの強さと気質としての人々の陽気さはない。それでもお祭り好き（で働くのは好きではない）ということについてはラテン系に通じており、サンホセなどの大きな町の大通りは事あるごとに車両通行止めとなり、フィエスタ（お祭り）参加者がダンスをしつつ、ときには牛や馬などもパレードしつつ通り過ぎることになる。沿道の見物人もフィエスタ慣れしており、たいていはさほどの熱狂には至らず、静かに見守るといったところだ。

人々が熱狂するのはサッカーだ。これはこの国の国技として位置づけられているので、大きな町にはスタジアム、それほど大きくはない町でもサッカー用広場は必ずある。任意の日付の新聞を開いた場合、報道ページ数の五分の一はサッカー記事で占められるほどだ。国際試合ともなればスタジアムでの喚声は何百メートル先からでも聞こえる。「若者はサッカーの国際試合にだけはナショナリズムを發揮する」と新聞論説で揶揄されるほどだ（しかし、これは



研究所（INISEFOR）の仲間と 筆者左から二人目
日本でも同じ）。

コスタリカの町は碁盤目の街路で区切られたブロックから成り、平屋建てかせいぜい二階建ての家屋が立ち並ぶ。その中心は教会、それに面して公園があり、その周囲には商店やメルカドがあるなどといった構造はどの町でもみな同じ、わかりやすいのだが画一的で、悪く言えば町としての個性はほとんどない。

オランダの心理学者ホフステッド（Hofstede）によれば、ラテン系の人々は押しなべて集団性が高い。コスタリカ人はコロンビア、パナマ、エクアドルの人々と並んで極めて高い集団性を持ち、逆に個人主義的傾向は極めて薄い。だから、集団の意思は個人の意見に優先し、目立ちたがり屋

や「俺が、俺が」的人格の持ち主は少ない。全員が寄り集まって行進するフィエスタ、みんなが寄り集まって熱狂するサッカー、同一様式の町で同一スタイルの生活する大家族などは、なるほど確かに集団性の顕著な現われであるともいえよう。



気候変動に耐える森林を目指す（INISEFOR）



独立記念日（9月16日）の路上ダンス

政府機関関連への協力

カンボジアの投資環境改善・投資誘致促進アドバイザー

いわな たかお
岩名 隆夫（元伊藤忠商事）

2007年11月にカンボジアの投資環境改善・外資の誘致促進のアドバイザーとしてプノンペンに赴任して1年と4ヶ月が過ぎた。13年ぶりに見たプノンペン市街は日本車であふれ、世界各国から援助機関、NGOが集まっているためか、国際色豊かなレストランが立ち並ぶ活気にあふれた街に変貌していた。もちろん日本食レストランも10件以上は存在し、値段も安くて単身赴任の身にはありがたい生活環境が待っていた。

カンボジアは、国土面積18万平方キロメートル（日本の約半分）、人口1340万人、農地と森林が多く、アンコールワット寺院で有名な国である。ベトナム戦争終結後の1975年には悪名高きポルポト政権の誕生、1979年にはベトナムに支援されたヘンサムリン政権の誕生、以後、三派連合との内紛の時期が続いた。日本では、まだこの当時の混乱した政治のイメージを持っている人が見受けられるが、今日では平和を享受している国民の姿が見られる。2008年7月に第4回総選挙が実施され、フンセン首相の率いる人民党（CPP）が123議席中の90議席を確保し圧勝した。そこには国民が平和を享受し、生活インフラの改善を評価し、現在の政権の経済政策を認めている姿が見られ、少なくとも今後5年間は一層の安定した政権運営が見込まれている。

国内の政治が安定してからまだ十数年しかたっていない若い国である。近年、目覚ましい経済成長を遂げており、建設ブームも見られ、あちこちで近代的ビルが建設中である。2004～2007年の間は毎年10%以上の経済成長を達成した。2008年度は国際的金融危機の影響を受け7%にとど



アプサラダンスの役者衆と

またが、2009年度はそれでも約5%の成長が見込まれている。縫製業、製靴の製造業及び観光開発事業が経済成長を牽引している。

日本との外交関係は、昨年2008年に国交樹立55周年の節目を迎え、各種記念行事が執り行われた。日本は最大の経済援助国として、カンボジアの和平と経済復興に大きく貢献してきた。しかし、残念であるが日本からの投資は極端に少なく、外国投資全体の1%以下にとどまっている。2008年7月末には日・カ投資協定が発効し、投資の保障、外国人待遇など最大級の優遇措置が供与されているので、これから日本の投資が増加すると期待されている。日本の技術、経営手法、特に中小企業の進出によるノウハウの移転が強く望まれている。ちなみに1994年以降2008年までの投資承認額は総額257億ドル、国別投資承認金額では中国、韓国、マレーシアの順となっており、日本は13位にとどまっている。日本はなぜカンボジアに来てくれないのか、というカンボジア政府の期待にこたえるように、投資環境の改善が、JICA専門家としての小職の一つのミッションである。

カンボジア投資の魅力はなんだろうか？政治の安定、高度経済成長、比較的安価な労働力、GMS（Greater



製靴工場訪問 2009年2月



アンコールワットにて 2008年10月

Mekong Sub-region) の地理的中心地、天然資源（石油・ガス、森林、鉱物）、広大な農地、などがあげられる。経済政策での第一の特徴は、開放的自由資本経済政策である。外国起業家に対しては国内起業家と同様に差別のない企業活動が保障されている（唯一の例外は、外国企業は土地の所有ができないこと）。第二には、US ドル経済圏であること。為替の取り扱い、送金などの制限がなく、自由であること。カンボジアの通貨であるリエル通貨は、外国人にとっては補助通貨として使われている。海外で事業投資を考えている方はぜひカンボジアにお越しいただきたい。

日系企業の進出はまだ少ない。カンボジア日本人商工会の会員は43の企業、団体から成り立っており、商社、建設業のほかオートバイの組み立て、銀行業、物流業などが活躍している。最近ではカンボジアの主要産業である縫製業、製靴業への日本企業の進出も見られる。

投資の基本法としては2003年に改定された「投資法」がある。内国人と外国人の差別ではなく、基本的にはあらゆる事業会社が外資100%で設立が可能である。一定の基準を満たし、「投資適格プロジェクト」としての認定を受ければ、法人税がMAX.9年間免税される。工場建設資機材の輸入関税の免除、さらに輸出事業に対しては原材料に対する輸入関税も免除が受けられるなどの特典が与えられる。



メコン川沿いの桜並木

さらに、50ヘクタール以上の広さの特別経済区が20か所以上も開発が進みつつあり、インフラの整備が進められている。シハヌークビル港に隣接した経済特別区では日本の円借款が供与されている（詳細はカンボジア開発評議会「カンボジアの投資ガイドブック」を参照）。

カンボジアには828人の在留邦人（2007年10月現在）が活躍しており、インターナショナルスクールが数校あるほか日本人補習校（土曜校）も運営されている。アンコールワット寺院を見たいという人も含めて、ぜひカンボジアを訪れていただき、活気のある若い国の姿を見て欲しい。

新刊紹介

『貿易実務のフランス語 Eメール実例集』

横田 納（元住友商事、関西外国語大学教授、ABIC会員）著
白水社 A5判196頁 定価3,000円(税別)

ビジネスの世界では英語が共通語化しつつあるとはいえ、フランス語圏との貿易に携わる企業にとって、フランス語によるコミュニケーションは、現地に根づき、事業を発展させる上で大切なポイントです。

本書は、商業文の書式・財務諸表の見方などのフランス語貿易実務の基礎、マーケティング・取引先の信用調査・引合い・信用状・売買契約・積出し・決済・クレームなど貿易実務のあらゆる場面に応用可能なビジネス例文集をまとめました。

輸出入業務の経験が豊富な著者が、実際の取引の流れに沿って構成しているので、わかりやすく、すぐに実務に対応できる内容となっており、巻末には便利な語彙・表現集（仏和・和仏）をつけました。

フランス語圏との取引に従事されている方やフランス語地域への赴任準備をされている方などに、幅広くご活用いただけることと確信します。



サンプル (32ページ)

Modèle 1 現地の商工会議所に生産者リストの提供を依頼する
<p>Objet : Demande d'une liste de producteurs</p> <p>Messieurs,</p> <p>Nous sommes une des maisons de commerce¹⁾ de première classe²⁾ dans notre pays, et spécialisés dans l'importation et le marketing de produits alimentaires. Notre siège social est à Paris, et nous avons des bureaux à Tokyo et Nagasaki.</p> <p>Vous en remerciant par avance, veuillez agréer, messieurs, l'expression de nos salutations distinguées.</p>

<p>件名：生産者リストの提供のお願い</p> <p>当社は当国における一流商社で、世界の食品の輸入販売を専門としております。 『World Food』最新号にて、当社の乾燥パスタと乳製品の広告を拝見し、非常に興味深く、感謝いたします。</p>
--

Vocabulaire et Expressions

- 1) la maison de commerce 商社
- 2) de première classe 一流の
- 3) les produits alimentaires 食品
- 4) le dernier numéro 最新号
- 5) les pâtes sèches 乾燥パスタ
- 6) les produits laitiers 乳製品
- 7) désirer en savoir plus sur ~についてもっと知りたい
- 8) la référence 信用照会

自治体・中小企業支援

ベトナムあれこれ —ホーチミンのホテル支配人として赴任して

はまだ もとお
浜田 元雄（元三菱商事）

昨年4月にABICの紹介でベトナムのホーチミンにあるパステル・イン・サイゴンというホテルの支配人に就任して、約1年経ったところです。ベトナムには、1993年に旅行で一週間滞在しただけで、その時は本当に表面をなげただけでした。なんだか空港も街中も暗くて乞食も多いし、この国は大変だなあと感じました。1986年に始まったドイモイ政策が、その後徐々に浸透てきて、ポスト中国と認知されるまでになりました。一度ぜひ行って見なければと思っていたところ、図らずも生活することになった次第です。

かつて、アフリカ、タイ、インドネシア、米国、メキシコといろいろな国で勤務し、それなりにその国の人々と付き合ってきましたが、ベトナムの人はどんなだろうか、と興味津々でした。来て見ますと、まるで香港人のように「喧騒」で、タイ語よりも言葉が「難解」で、アジア共通の「言い訳」が多く、日本人以外の多くの国の人々のように「弓継ぎ」をせず、驚くことに業務上のミスによる「損」は個人が負担するという現象まで見せてもらっています。

前回の印象とはまるで違います。まず、2007年にホーチミン空港が新しくきれいになっています。オートバイは以前とは比較にならないくらい多くなっています。何しろ年間300万台もオートバイが作られており、「国民の足」としての地位を完全に確立しています。車で出掛けようにも駐車場がないのです。食事に行った時などは、運転手はどこかで待機していて、携帯で食事が済んだ旨を告げるとレストランまで戻ってくるといった具合です。携帯も猛烈に普及しつつあります。電話の普及率は92.6%で、そのうち携帯電話が83.5%と言われています。

乞食の姿はほとんど見かけません。その代わりというか、犯罪の方はだんだん手口が巧妙になり、ここホーチミン総



パステル・イン・サイゴンの正面玄関前にて
ホテルのスタッフと筆者



領事館の発表では、過去1年で約80人の日本人旅行者がぼったくりバーとか、いかさま賭博の被害にあっているそうです。これも氷山の一角に過ぎないかもしれません。

ベトナムに来て、疑問に思うことがあります。例えば、ベトナム人と話をする時、なぜ「人ととの距離」が近いのか。ベトナム人は、なぜ「大きな声」でしゃべるのか、なぜ自分の「非を認め」ようとしないのか、なぜ人の「悪口」を堂々と言いつけに来るのか。

その一方で、人にものを渡すときに「両手」に持って渡す。挨拶するときに両手を胸の前に組んで「挨拶」する。廃品、廃物をできる限り「使いこなそう」とする。ちょっとしたMeetingで挨拶をしても、必ず「拍手」する等々。「う~ん、日本では忘れてしまったなあ」ということを垣間見る場面がたくさんあります。できれば、滞在中にその解答を得て帰りたいと思っていますが…。

最後に、職場について少し宣伝させていただきます。パステル・イン・サイゴンは「邦人、ビジネスマン、海外進出」のキーワードで日本人顧客に特化した3スターホテルです。5スターホテルのようにプールもジムもありませんが、日系企業の紹介、ベトナムの政治・経済・文化の紹介、ベトナムで活躍されている日本人の方々の紹介、また日本語の小説、雑誌、新聞、DVDの貸し出し等々、「情報サービス」を中心に置いています。手前味噌かもしれません、この点ではどこにも負けないつもりです。

私も長い間、ビジネスマンのはしぐれとして、「ホテルを予約する側」「泊まる側」にいましたが、今は、逆に「泊まって頂く側」に立っています。泊まる側にいたときに感じたことをベースに、少しでも改善できるように日夜頑張っております。

ホーチミンに来られた際には是非お立ち寄り下さい。



自治体・中小企業支援

やまぐち産業振興財団に対する支援活動 —下関市での「新製品フェア」で首都圏事業化支援

ABICの自治体協力活動の一つである（財）やまぐち産業振興財団に対する事業支援は、「首都圏事業化支援コーディネート事業」として、2007年度に引き続き2008年度も業務委託契約を締結している。ABICでは、ナビゲーター3名体制で毎月1回の首都圏での相談会および年3~4回の山口県内の企業相談会をベースにして、首都圏における事業化支援および販路開拓活動を実施している。現在までに相談企業数は延べ 約50社、販路開拓のための訪問企業数は延べ約60社となり、着実な活動を行っている。

2008年度は、昨年11月11日～12日に下関市で開催された「新製品フェア」の会場で企業相談会を行なうことになり、ナビゲーターの大井孝允（元三井物産）、近野治夫（元丸紅）、大森日出太郎（元三菱商事）各会員の応対に同席した。

「新製品フェア」は、関門海峡に面した“海峡メッセ下関”の展示見本市会場にて、山口県、下関市、（財）やまぐち産業振興財団の主催で開催され、山口県内の中小・ベンチャー企業に、各社が開発した新製品、サービスの内容、長所をアピールする場を提供するものである。食品、環境、福祉医療、エコ市場、生活文化、土木建築、下関ブランド等、多岐に亘る業種の企業 50数社が参加し、それぞれのブースにおいて商品の展示、また商談を行ない、来場者数も多く盛況であった。

展示会場の一角に首都圏事業化支援のための相談会デスクが設けられたが、相談時間が限られていたため、ハード関連企業（大井、大森）と、ソフト関連企業（近野、高廣）



販路開拓の企業相談会デスク(左列手前から高廣(筆者)、近野、大井、大森)

に分けて対応した。製品としてユニークなものが多いものの、競争の激しい首都圏での販路開拓は容易ではなく、まだまだ工夫、改良を要するものが多いとの印象であった。引き続きABIC会員の豊富な知識、経験、人脈を大いに発揮して、一つでも多く首都圏市場へ送り出すべく努めていきたい。

相談に応じた製品を2~3点ご紹介すると、①低カロリー、ダイエット食品のおからパン、②糖尿病、高脂血症用 サプリメント、③低カロリー食の蒟蒻ラーメン、④自然薯ラーメン、⑤汚水処理・汚泥減少システムなどである。この他にも工夫を凝らした多くの新規開発商品があり、事業化の足掛かりとなる販路開拓支援活動が期待されている。

(中小企業支援担当コーディネーター 高廣 次郎)



「新製品フェア」会場



プロジェクトの受託

経済危機の影響下のブラジル人子弟支援

1990年代から始まった日系ブラジル人の日本への出稼ぎは、2007年末には家族を含め32万人に達し、日本の産業の下支えをしてきた。しかし、日本人ブラジル移民百周年に当たる昨年(2008年)後半に発生した世界経済危機が、在日ブラジル日系人社会に多大な影響を与えている。

2005年度から2008年度まで、ABICブラジル支援グループは、三井物産が長年にわたる友好国ブラジルに対する社会貢献事業として、約3万人いると推測される学齢期ブラジル人子弟を対象に行なってきた下記3つのプロジェクトの実施業務を受託してきた。子弟3万人の内訳は、1万人が日本公立学校、1万人がブラジル人学校に通学し、残り1万人が不就学・不登校となっている。そのため、プロジェクトも次の3方法で行っている。

1. ブラジル人学校支援 :

現存する約100校のうち、ブラジル政府の認可を受けている52校を対象に5年間で30校を選び、各校から要望のあった5百万円相当の資機材を現物で支給をしている。(合計1.5億円)

2. 副教材開発（公立学校へ通う子弟の副教材作成）：

東京外国语大学に依頼してネットでダウンロード可能な方式を採用し、2005年から開始し2008年末に完了した。(教材は漢字と算数) これに対するアドバイス業務を実施。



寄贈した人体模型で学習

3. 不登校・不就学生に対する支援(不良化を防ぐため):

ブラジル人シスターの指導するNPO法人在日ブラジル人を支援する会(SABJA)に対する支援。SABJAはブラジル人が集住する都市各地でイベントを実施し、不就学の青少年を集めて就学や進学へのアドバイスや指導をしており、この業務に対する協力、支援である。

この5年間の実績については、三井物産/ABICに対し在日ブラジル大使館やブラジル人学校協会から高く評価され、謝辞や感謝状などをもらっている。

しかしながら、昨年末から日本を襲った世界経済不況の波は、ブラジル人子弟にも過大な負担を強いている。20年近く在住する日系ブラジル人のほとんどが派遣業者経由で働いているため、派遣切りの対象になっている。特に、親が学費を払えないため、ブラジル人学校の生徒が軒並み半減し、多くが経営難に陥っている(退学生は、帰国か自宅にいるケースが多い)。日本語能力の不足のため日本の公立学校への転校は少ない)。しかも、ほとんどの学校が日本では私塾扱いになっているため、日本の公的支援(国・県・市町村)が受けられていない。

この様な危機的な状況の中で、今後、ブラジル人子弟への支援をどのように行うべきか、三井物産からアドバイスを求められており、集住している地域(北関東、東海、近畿、長野、山梨)を回り実態調査を行っている。まだ結論



寄贈した遊具で遊ぶ子供



寄贈したパソコンで学ぶ生徒



寄贈した運動場で遊ぶ生徒

が出てはいないが、問題点を集約すると下記である。

1) ブラジル人学校：長期滞在する以上は、ブラジル人学校などやめて日本の公立学校に行くべきとの厳しい意見もあるが、日本語を話さないあるいは帰国を望む人たちもあり、受け皿としてのブラジル人学校の存在は必要である。しかしながら、一民間企業が学校の求める財政的な救済をする立場になく、一部生徒への奨学金の供与ぐらいである。

2) 日本の公立学校：経済的負担の大きいブラジル人学校に行けない子供たちが日本公立学校に就学するが、日本語が十分でないため、特に高学年生が不登校になるケースが多い。残念ながら、外国人労働者受入れに対する国の方針がない日本では、外国人年少者日本語教育のシステムが出来上がっておらず、早急な対策を立てるべく政府・文科省に提言している。

3) 基本的な定住外国人受入体制の整備：不就学になっている原因は、親の失業で学費が払えない結果であり、短期的な労働者の受け入れではなく、長期的な視野での定住外国人の総合的受入体制（外国人管理、生活社会環境充実、教育の整備など）を策定するべきである。

少子高齢化社会の到来で、将来的に労働力不足が予想される日本は、外国からの優秀な人材の受け入れが必要とされている。既に在住する3万人の日系ブラジル人子弟はその人的資源の一つであり、日本語・ポルトガル語のバイリンガルとして、将来の資源大国で日本の重要なパートナーで



移転した教会での授業風景



放課後の日本語教室

あるブラジルと日本の掛け橋となり得る子供たちであり、十分な教育機会を与えることが最重要課題と考える。

(中南米担当コーディネーター 森 和重)

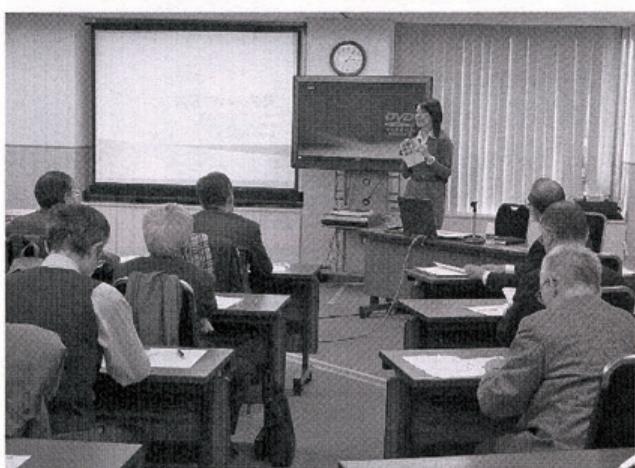
教 育

英語で授業するABIC大学講師陣 —英語で教える講義法講習会

2008年12月12日、ABICで「英語で教える秘訣」というテーマの講習会を、名古屋大学留学生センターの堀江未来准教授を講師に迎え開催した。現在、既に大学で英語での授業の経験のある会員を中心に27名、それにコーディネーター9名含め合計36名が参加した。

2008年度にABIC会員が大学で講義するコマ数は719コマに上り、そのうち164コマ（約23%）が既に英語で行われており、これらの講座内容は経営学特講、eビジネス、会計学、国際貿易と投資、アジア太平洋の日本企業など多岐にわたっている。

現在、日本では文部科学省ほか関係省庁が2020年を目指して留学生30万人を受け入れる計画を策定し、その中に英語のみのコースの大幅増加との方針も含まれている。グローバリゼーションの世界の動向から見て、英語での授業開講のニーズは増える一方である。これに対し、外国人教員の増強はもちろんであるが、英語で授業する先生の層を



増やすことが必要である。外国の学会では発表するが、授業を英語でと言うとたまらう先生もいると言われている。

筆者の経験から、まず英語で90分も話し続けられるだろうかというのが、初めて英語で授業をする時の不安であ

った。大学の留学生の教室で自分のキャリアを1コマ話す機会を数回持った経験があり、これが授業に挑戦する際に自信となり、役立った。その後、立命館アジア太平洋大学で講義する機会に、同学の講座は日本語と英語で同じ内容の講義をやってもらうことが条件ですと言われ、一講座を通して担当した。

何回か英語で講義をして気が付いたことは、留学経験がないので英語の授業を受けたことはないが、やはり教室英語(Classroom English)を使えるようになる必要があるということであった。例えて言えば、贈り物をするときにスーパーのレジ袋に入れて渡すのではなく、進物用の包装をして渡せば、中身の価値を正当に認識してもらえるということである。これがきっかけで、この講習会の企画に繋がった。

今回の講座の案内に対し、多くの会員が積極的に参加の

意思を示し、当日はDVDによる実際の授業風景を見た後、熱気にあふれる質疑応答がなされた。特別に参加頂いた一橋大学太田浩准教授からも、大変有意義なアドバイスを頂いた。ABIC会員の語学力のレベルは非常に高く、また海外の異文化の中での経験も豊富であり、英語での授業を抵抗なく担当できる会員が多い。従って英語の表現の問題だけでなく、FD (Faculty Development : 授業法の向上) は日本語でやる授業にも共通することである。講座の構成、シラバス^{*}の書き方や成績評価法など引き続きABICとして取り組んで講座の質を上げ、英語で授業する講座を更に積極的に多くの大学から引き受けていきたい。

※授業の計画、目標、方針、成績評価の方法などを書いたもので、受講生はこれを履修の参考にする。

(大学講座等担当コーディネーター 谷川 達夫)

教 育

教員免許更新制実施に向けてのe-learning講座提供

2007年6月に成立した改正教育職員免許法に基づいて、本年4月以降、初等中等教員向けに教員免許更新制が実施される。教員免許更新制とは、「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目的とするもの」(文部科学省)であり、10年毎に合計30時間(①教育の最新事情に関する事項=12時間以上、②教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項=18時間以上を提供される科目から選択する)受講し、各回の確認テストと修了テストに合格する必要がある。

教職教育課程を持つ国立大学法人金沢大学では、法制化直後から免許状更新講習実施大学として講習準備を進めてきたが、今般、4大学共同によるe-learningを活用した講座を提供することとなり、東京学芸大学(国立)、愛知教育大学(国立)、千歳科学技術大学(私立)などに加えてABICにも講座提供の協力要請があった。全国規模で10万

人／年、石川県・愛知県では約7400人／年の教員の受講が見込まれているが、講習実施機関の不足が懸念される中で、インターネットを活用したe-learning講習は、いつでも、どこでも受講できるというメリットがある。

ABICでは、大学、エクステンションセンターなどでのこれまでの講義実績を踏まえて、2009年度講座として「授業に活かすプレゼンテーション」(城田比佐子講師)と「近くて遠い国ロシア」(千田英樹講師)の2講座を提供することとなり、講座コンテンツ制作と講義ナレーション作業を実施した。

完成したコンテンツは講師の豊富な講義経験や駐在経験に基づく興味深い内容に仕上がっており、教員免許更新に必要な選択科目として大いに活用されることが期待される。ABICとしては新しい分野の活動であるが、今後の教員免許更新講習の需要拡大に合わせて、引き続き、さまざまなテーマで展開していく予定である。

(大学講座等担当コーディネーター 猪狩 真弓)



金沢大学での講義ナレーション収録風景 (2009.1.19~21)



留学生支援

鎌倉ユネスコ協会との交流イベント

2008年11月9日（日）、ABICが日本語広場、日本文化教室、家族の出産・育児・健康相談・入園・入学サポートなどの支援をしている東京国際交流館在住の留学生と、鎌倉ユネスコ協会（会長は平山郁夫画伯）との交流イベントがありました。

当日、高徳院の大仏を囲む回廊のブースや広場の会場で、鎌倉市後援の下に“かまくら国際交流フェスティバル”が開催された。鎌倉地域で社会貢献活動を進めているNPOや任意組織の二十数団体と鎌倉市による実行委員が主催し、識字・世界遺産支援のためのバザー、各国料理紹介と試食販売、世界の民族衣装の試着体験などを通じて、大仏を訪れる日本人や外国人との交流が進められました。

主催者の鎌倉ユネスコ協会からABICを通じて、東京国際交流館の留学生の参加への呼びかけがあつて交流館で募集したところ、多数の応募があり、45人乗りバス満杯の留学生達がフェスティバルに参加し、さまざまなイベントや買い物を楽しみました。その後、留学生たちはユネスコ協会肝いりで、鎌倉シルバー・ボランティアーガイドの方々のご案内で、鶴岡八幡宮周辺から建長寺にかけての歴史散歩



民族衣装の試着体験

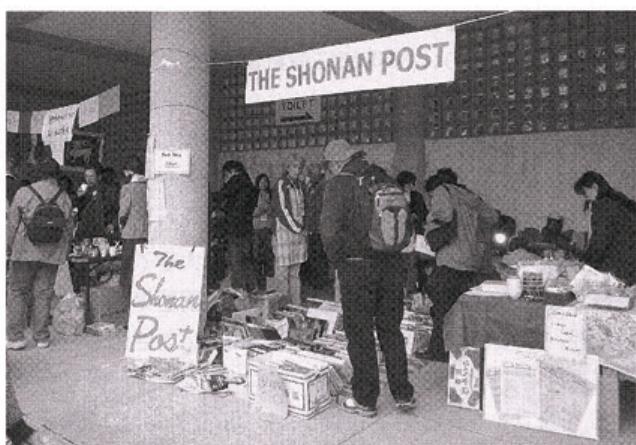


大仏前で

を楽しみました。今後、鎌倉ユネスコ協会と東京国際交流館の留学生との間で、さまざまな交流が進むでしょう。

鎌倉一日ツアーのバス代などは、前日に交流館で行われたABIC会員等から寄贈された物品のバザーの売り上げの一部が充当されました。

（留学生支援担当コーディネーター 田中 武夫）



バザー

事務局だより

関西会員懇親会を開催

毎年恒例の関西地区会員懇親会が3月6日（金）午後5時～7時、丸紅大阪支社2階レストランにて行なわれました。三幣理事長の開催挨拶に続き、天野日本貿易会専務理事（ABIC監事）の発声で乾杯の後、活発な交流、歓談が行なわれました。関西地区在住会員など総勢約70名の参加があり、大変盛会でした。



私の
ボランティア活動

一期一会のボランティア

くわがた いさお
鍼形 熱 (元伊藤忠商事)

永年の商社勤務を通じて数多くの人の出会いがありました。取り分け強く印象に残っているのは、海外で出会い、交流をした人達のことです。初めての駐在生活を始めた時は独身で、その国の言葉も余り解らず、手探りの状態での外国生活でした。現在の様に携帯電話やインターネット、電子辞書もありません。

ブラジルの駐在で私にポルトガル語を教えてくれたのは、事務所のブラジル人スタッフ、週末には大家さんの家族や行きつけの食堂、洗濯屋、床屋等の店の人達です。どの店の人も面倒臭がらずに、こちらの拙いポルトガル語を聞いてくれ、間違った表現は訂正してくれるので。これはブラジル人の人柄の良さや親切心、外国人に対する開放的な性格によるものだと思っています。

月に数回大家さんが家に招待してくれ、そのつど大家さんの家族や知り合いが集まりパーティーとなります。唯一の外国人である私には、皆からの質問が殺到します。「東郷元帥があのようになれば完璧な海戦が出来た背景は何か?」「仏教と神道の違いは何か?」等など、日本語でも説明が難しい質問が次々と出でます。今更ながら日本文化や歴史を知らなかったことを痛感させられ、暫くはこのパーティーに呼ばれるのが苦痛でした。「言葉の壁」と「自国の歴史の壁」を少しずつよじ登るため、次の「傾向と対策」を考え「想定質問集」を作り、予め回答を作っておいたのです。

今振り返ってみると、私には沢山のポルトガル語の先生がいて応援してくれました。この人達は私のブラジル生活の水先案内人となってくれ、また精一杯外国人との出会いの偶然を喜びその時間を楽しんでいる人達でした。

星めぐり幾星霜、出勤という日程から解放された時、今度は自分が日本語を教える立場になろうと決意したのはごく自然のことでした。ABIC会員の多くの方がそうであるように、永年の会社勤務のお陰で経済的不安ではなく、これからは「お金を稼ぐ楽しさ」とは違った「教える楽しさ」「忘れ得ぬ出会いを作る楽しさ」を追求したいと考えています。

現在、私は東京国際交流館にてABICが実施している「日本語広場」の初級クラスで教えています。先日も私のクラスで勉強した7歳の韓国人の男の子が手を



「日本語広場」初級クラス

振って走ってきて「先生こんにちは、お元気ですか?」と美しい日本語で話しかけてきました。日本の小学校に入り友達も出来楽しく通学しているのを聞くと、嬉しくなりますね。彼は良い思い出として日本人の学校友達を、大人になっても覚えていてくれることでしょう。

日本語広場は情報交換の場所でもあります。定期券の買い方、有名観光地への行き方等から始まり最近では外国人同士の交流も盛んになっています。入館者が多い国の人達には国ごとのグループがありますが、少人数の國の人達は他国の人達との交流が持ちにくいようです。そこで日本語広場がその人達の交流の場となっています。先日もインドネシアの人が得た生活情報が、インド、イラン、カザフスタンの人達に伝わり、発信元のインドネシアの人に伝わったと皆で大笑いしたことがあります。この人達は皆一様に日本の生活に馴染み、滞在を有意義なものにしているようです。

日本語は語彙豊かでしなやかな言葉です。それを基盤とした日本の文化は独創性と感受性に富み、世界に誇れる文化だと思っています。日本文化という深く広い文化の森を外国の人が理解するには、矢張り海外生活を経験した私たちが道案内人となってあげるのが良いようです。

ボランティアとは一隅を照らす一灯であると私は考えています。しかし、この灯は数が増えると周りが明るく温かくなると、思っています。

会員入会のお願い

国際社会貢献センター（ABIC）の活動にご賛同頂き、会員として資金的援助をしていただける個人の方や企業、団体のご入会をお願い申し上げます。

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人及び団体 一口 50,000円
		個人 一口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める個人、法人及び団体。	法人及び団体 一口 10,000円
		個人 一口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 一 一

正会員

団体・法人 (17社)	(社名五十音順)			
〈10口〉 (社) 日本貿易会	伊藤忠商事(株)	住友商事(株)	双日(株)	
豊田通商(株)	丸紅(株)	三井物産(株)	三菱商事(株)	
〈4口〉 倍日立ハイテクノロジーズ				
〈2口〉 岩谷産業(株)	稻畑産業(株)	長瀬産業(株)	阪和興業(株)	
〈1口〉 協同木材貿易(株)	興和(株)	JFE商事ホールディングス(株)	蝶理(株)	
個人 (7名)	(敬称略・入会順)			
池上久雄	寺島實郎	小島順彦	宮原賢次	吉田靖男
				岡素之
				佐々木幹夫

賛助会員

法人 (3社)	(社名五十音順)		
(有)イーコマース研究所	(株)エックス・エヌ	キーリサーチネット(株)	
個人 (359名)			
下記は2008年11月以降にお申し込み頂いた方です。ご協力に深謝申し上げます。			(敬称略・氏名五十音順)
〈2口〉 新藤哲雄			
〈1口〉 大倉芳郎	城田比佐子	藤井重隆	堀岡太木生
松村直治	松山功	柳田敏明	横田陟

活動会員 1,872名

(2009年2月末日現在)

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mailアドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
転居先不明で返送される例が増えてています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5979